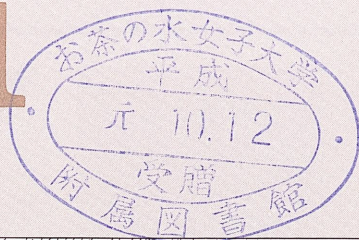


家庭・保育所・幼稚園

幼児の教育

1989 11



これからの子育て

INFANTOPIA 2018
子育て小論文コンクール入選作品集



フレーベル館

これからの「子育て」

全日本私立幼稚園連合会編

全日私幼主催の「21世紀をめざす子育て国際会議」
の子育て小論文コンクール受賞作品集。

日頃子育てに関して悩みをもつ母親や保育者などはもちろん幅広い
子どもに関する勉強をしたい方々には大変参考になる子育て論、
一家に一冊、一園に一冊をおいておきたい書です。

B6変型判・264頁・定価1,200円(本体1,165円)

保育する 目を創る

立川多恵子



保育する目を創る

立川多恵子・著

子どもがわかる。保育がわかる。援助のあり
方を示してくれる。

一人ひとりの子どもの姿や、行事のもち方を読みとり、担
任と話し合っ、子どもとの接し方や活動の方向づけを教
えてくれる本です。

A5判・272頁・定価1,700円(本体1,650円)

保育の一日とその周辺

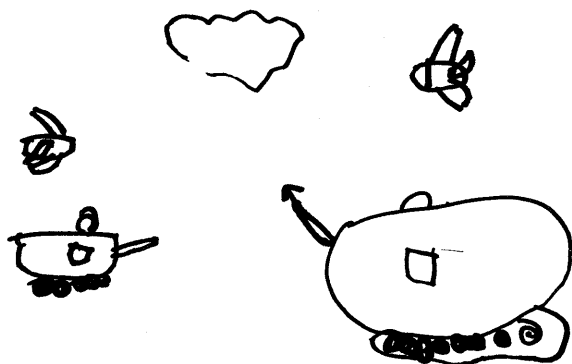
津守 真・著

保育実践の基本となる「一日」を中心に保育
論を展開する。

●保育の原点をわかりやすく述べる。 ●豊富な実践と深い
省察で、保育者へ新しい保育の指針を明示。 ●幼稚園
教育の在り方についても言及。

A5判・248頁・定価1,600円(本体1,553円)

幼見の教育



第88卷 第11号

幼 児 の 教 育 目 次

—第八十八卷 第十一号—

時の流れの中で

—足立寿美「カウント・ゼロ—原爆投下前夜」をよむ……………津守 真(4)

特集へおもちゃV

日本のおもちゃを考える……………多田 信作(7)

保育環境としての玩具を考える……………村石 京(16)

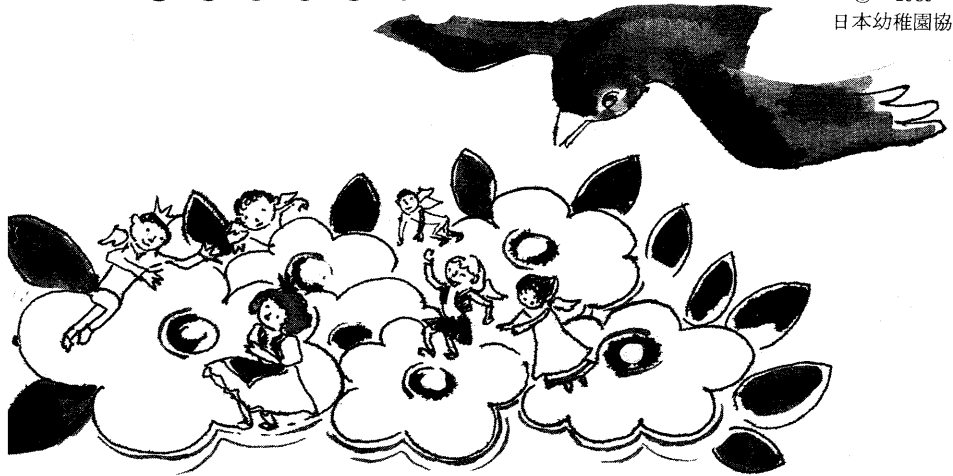
へままごと道具V考—インドネシアの場合—……………渡邊美津子(20)

私の手作りおもちゃ教室……………黒須 和清(26)

動詞で作ろう手作りおもちゃ……………秋田 輝喜(30)

コンピュータゲーム……………大川 潭二(35)

© 1989
日本幼稚園協会



人格形成を促進する玩具の機能的特性……………三神 静子…(39)
一人ひとりのイメージの世界を表現する

モノとしてのおもちゃ……………今井 和子…(43)

イメージ画にみる母子関係 その4

そそぐ母とあおぐ私……………やまだようこ…(48)

若いお母さんたちへ

赤ちゃんをむかえる日々……………河合 聡子…(56)

表紙イラスト・津守 たたえ

扉題字・堀合 文子

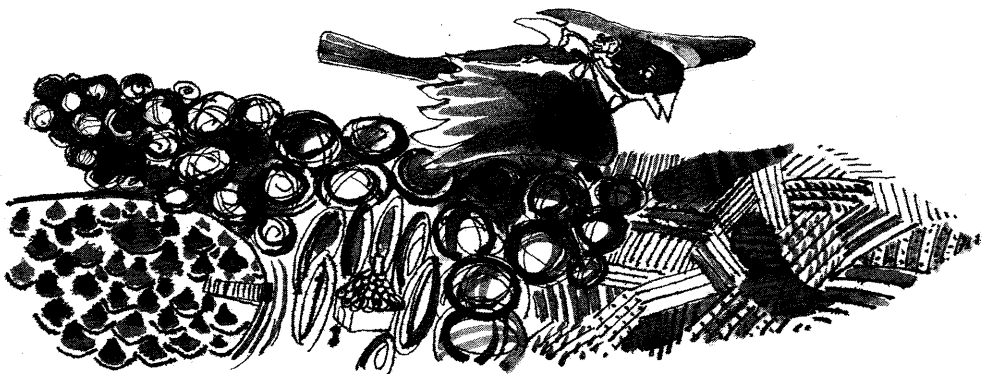
扉カット・お茶の水女子大学附属幼稚園園児

カット・福田 理恵

編集委員・本田 和子／村山 英子

上坂元絵里

編集部・大沢 啓子



時の流れの中で

——足立寿美「カウント・ゼロ——原爆投下前夜」

(現代企画室刊) をよむ——

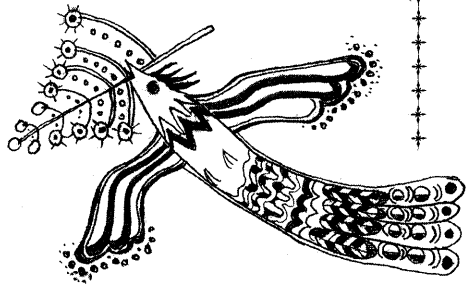
津守 真

今年の夏、英国から帰って間もなく、八月九日の長崎原爆記念日に、足立寿美さんからこの書物が送られてきた。

一九四五年四月十二日にルーズベルト大統領が急死し、準備がないままに責任ある地位を引きついだトルーマン大統領が、原爆投下の決定を下すまでの経緯を、人間の身辺からさぐるうとした書物である。

著者は、どこでも出かけていって、歴史の舞台で重要な役を担った人たちと直接にインタビューし、女性としての才能を駆使して、出来事の底にあったことをひき出す。著者の足立寿美さんとは、その学生時代から、三十年以上にわたり、私は知り合ってきた。

著者は、広島女学院、お茶の水女子大学を卒業の後、米国に留学した。若くして亡くなったご主人



は、米国の理論物理学者だった。著者が少女時代を過ごした広島県の運命と原子爆弾、その最先端の理論と取り組んだ物理学者たちの人生、それとかかわる政治家の人生、それらは著者自身の三十年間の歴史と直接間接に織りまざっている。個人の歴史と世界の歴史とはどう重なり合うのか、著者のみでなく、この変動の時代を生きてきた人々の共通の疑問ではないだろうか。

もちろん、この書物が訴えることは、核の使用に対する警告である。「探究心という優れて純粋な欲望が産み出してしまった史上最強にして最悪の兵器―原爆。本書は世界平和の構築という理想主義のもと、あの大規模な破壊と大量殺戮に至る決定が、あまりにも稚拙な思考回路のはたらきによって下されたことを明かす。」という文章は、本書の内容をよく示している。

この書物の舞台が動いていた時代は、一九四五年の八月である。私はこの同じ年の四月に大学に入學した。そのころの日記には、週二回の軍事教練に対する疑問が記してある。間もなく私は召集令状によって軍隊にゆき、原爆投下の日には、房総半島南端で、伝令としてこの新型爆弾のメモを部隊に報告するために走っていた。それから後、世界の歴史が大きく転換する中で、私自身、子どもの仕事を専門として青年期から壮年期を過ごし、いま老年期に向かっている。

この書物のあとがきに、次のように記してある。

「東京の変貌は、年に一度帰国するかしない人間には激しいものである。有栖川公園の近辺も例外ではなく……公園に面した一角に、現天皇誕生を記念して建てられた愛育病院があった。正面玄関をぐるっと回って手前のドアを開ける。『あら、先生、どうぞ』出されたスリッパに足を入れながら、

一気に三十年に近い時間が戻り、目の前の顔を信じられない気持ちで眺め入った。……」

この著者が卒論を書いたのは、この養護学校の幼児のクラスであったことを私は思い出した。著者にとって、ここの保育の姿は、変形する時代の中で最も変らないものなのであろう。たしかに、子どもと応答する保育の実際は、どの時代にも変わらないものがあるにちがいない。だが、社会の中でのこの子どもたちの位置、親の認識、将来への考え方など、この三十年間に局面が一回転したかのような変化がある。そしてあのころの子どもたちは、遙か以前に子ども時代を通りすぎて、大人になっている。

個人の歴史と社会の歴史とは重なり合いながら変化する。

*

*

*

この夏、私はロンドンでOME Pの世界大会と理事会に出席した後、障害児と障害者の学校と施設を訪問し、この分野の変化の実際にふれて衝撃をうけた。この国では一九九一年に、精薄者の施設は閉鎖される。障害者をコミュニティにもどす作業に、当事者たちは精力的に仕事しているのをみて、私は、福祉の概念が革命的に変化しつつあることを感じた。

(愛育養護学校)

日本のおもちゃを考える

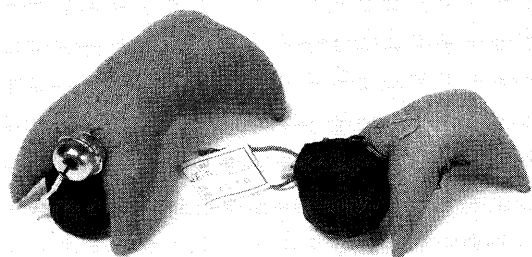
多田 信作

1、玩具の生い立ち（歴史）

自然物をおもちゃ化したのは、野武士の人たちです。戦国時代（一六〇〇年頃）勝っても負けても、必要になった雇われ武士は、その場で首きられ、野武士になり、諸国を放浪しながら、野士（やし）になり、いろいろな地方、地域で竹や木片、草花を利用しておもちゃを作り、主に祭りのとき、それらを販売したといわれています。その代表的なものの一つにガマの油売りといって野草を煮て貝殻につめて売って歩きました。

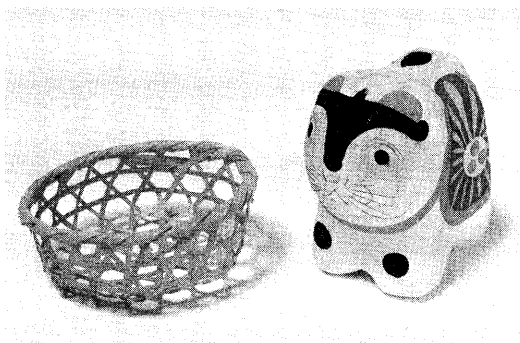
また、むかし人々はお守りや、魔除けとして神社で、今日おもちゃといわれているものを買って求め、よりかかりの対象としました。

その代表的なものは、母親が端ぎれで縫って赤ん坊の隣に寝かせる這子（ほうこ）さん（写真①）奉公—奉子と、いろいろな当て字がありますが、



① 這子さん

で出来ているザルをかぶせる、すなわち犬に竹で『笑』という字になるこのユーモアは実にみごとです。もちろんこのほかに『ザルかぶりの犬張り子』は、子どものそばにおいておくと、ザルは水や穀物とおすので、なんでもとおすことにかけて、鼻がつまってもよくとおす、つまらなくなるなどとひっかけ使われたりもしました。このように、私たちのまわ



④ ザルかぶりの犬張り子

りにあるおもちゃ類は人々がみんな生活の中で考え、苦しみながら、どうしても必要なものとして作りあげてきたものばかりです。

このほかに、季節・行事・儀式のなかから生れたおもちゃ類はたくさんありますが、おもちゃの図書として江戸時代に『嬉遊笑覧』『尾張遊集』『江都二色』などが刊行されました。これらをひもとくと、昔の人々が生活の中で考えていたことがありありとわかることでしょう。

わりと知られていないのは、沖縄が伝統おもちゃの宝庫であることです。まず、あのへビの型をした“ハブ”（写真⑤）。天然の植物繊維を編んで本物のハブそっくりです。口のところに指を突っ込むと引っ張っても抜けないのですが、引っ張るのをやめて押すと簡単に抜ける。押すときに相手の手を取らなければなりません。何故このようなものが作られたのでしょうか。若衆宿で、若い男女が互いに試みて、手を触れ合っただけです。人間交流のおもちゃ———どの国の

メーターであるとも言えます。

おもちゃはまた、子どももの心身の機能の発達を促し、生活の幅を広げ深めるための道具です。おはじき、ビー玉、竹馬……それに、あやとりの一本の糸。かつて日本の子どもたちがなじんだ一つ一つのおもちゃは、それぞれ子どもの発育に欠かせない役割を果たしてきました。

今も、これらを使って巧みに子どもたちの能力を引き出している人も少なくないようです。温泉場のお土産のなかにも、探すと、三本指（親、人さし、中指）の動きを活発にするおもちゃが見つかります。

II、心地よい音の出る日本のおもちゃ

人間は他の動物と違い道具を作り、上手に使うことができます。同様に、赤ちゃんも道具を使いこなすようになつてきます。その道具こそ、言うまでもなく『おもちゃ』なのです。

生れて初めて耳にする音は、お母さんの優しい語り

かけであり、『ガラガラ』や『メリーゴーランド』の音です。そして次には色が分かるようになり、黄色や赤の暖色が施してあるぬいぐるみや、ボールを握ったり、投げたりします。このような生まれて初めて手にするようなおもちゃは、やはり重要であるといえます。このときこれらのおもちゃを選ぶのではなく、自分の手で作ってあげてください。

既製の『ガラガラ』や『メリーゴーランド』の音は、何ともにぎやかで、うるさいとさえ感じるときもあります。赤ちゃんにはピンクやクリーム色の洋服が似合うのと同じように、優しい淡い音を聞かせてあげましょう。少し、そのようなおもちゃをご紹介します。

まず最初に、茶こしとビー玉で作る『ころころマラカス』です。茶こしを二つ合せ、中にビー玉を二、三個入れ、二つの茶こしを糸でしっかりとかがります。次に、中細ぐらいの毛糸で茶こしの形にそってこま編みで編んでいくのです。どこかで見たことがあると思

だからこそ、手づくりのおもちゃの温かい魅力に助けてもらって、明るい気持ちで暮らせるときを作り出していきたいと思えます。子どものお気に入りへの着古した服地やTシャツなどを利用して、そんなおもちゃを作って実験をしています。

Ⅲ、手づくりのよさをみなおす

手づくりということばは今ブームで、何でも手づくりの何々といったものが多く出まわっています。手づくりのおもちゃもかなりたくさん紹介されています。どうしてこのようなブームを呼んだのでしょうか。

一つには、ギスギスした都会生活のなかで、人の手の温かさや自然の白木などの素材が、私たちに安らぎを与えてくれるからでしょう。失われたものを求める精神です。また子どもたちにとっても、成長の糧となるおもちゃと、既製のマス・プロ化された大人たちの商業主義的なおもちゃとの区別がつくのでしょうか。現に、おかあさんが端ぎれでつくったぬいぐるみは、あ

る特別な意味をもって存在し、ほかの子どもたちが感じるこのできない世界でただ一つの特別な関係をおもちゃと持ちえるのです。

それにもまして、お母さんがわが子に、教師が自分のクラスの子どもたちに、発達に即した表現力や機能を促すために、優しい思いやりと深い愛情をベースにして作るものは、子どもたちの創造性、美しいものへのあこがれや優しい心を大切にす豊かな情緒性までも高めていくのです。

身近にいる人が本当に子どものことを考えて作るものに勝るものはないはずで、本来おもちゃはそういう姿を持っているのです。自然の草花や木々のなかで、大地のうえで、彼ら子どもたちが走りまわって遊ぶのが本当の生活です。そう考えると、花の冠、草笛などは、一番の手づくりのおもちゃといえるでしょう。手づくりのおもちゃこそは、失われつつある自然と大人と子どもとを結ぶかけ橋なのです。ですから「ダーズ」いくらで買える木綿の手袋(写真⑥)から、さまざま

か。ひとつ、家のなかのおもちゃに目をむけてみてください。子どもが見むきもしなくなったものが数多く部屋のすみに山積みになっていませんか。なぜ、子どもたちはそのおもちゃで遊ばなくなったのでしょうか。

大きくなったからというだけではないはずです。また、どうしてそのようなものを買ったのでしょうか。安易に買い与えたりしていませんか。これらさびしげな不要物は、おもちゃを考えるうえで重要な意味を持っています。子どもたちにとって、遊びは生活全体といっても過言ではありません。つまり、その生活に必要な道具こそおもちゃなのです。昔から、人は道具を吟味し、選択し、その内容や質を考慮してきました。このように、おもちゃに関しても、作る側、買う側の双方がより吟味しなければいけないのです。

まして、子どもの生活の糧となるおもちゃは、純粋なものではなければいけません。またそれ以外に、大人たちの話しかける言葉や、優しい微笑も大切になってきます。子どもたちにはわかるのです。その証拠に、

大人が金もうけのために作ったおもちゃがなくても、子どもたちは木の板一枚でも、木の葉一枚でもすぐにおもちゃにしてしまえるのです。ところが、そういうことができない子どもたちが増えています。無気力で孤独で、集団のなかで遊ばないで、いや遊べないで、テレビにはかりかじりつく老人化した子ども達……そういう子どもたちを作っているのは私たち大人であることに今すぐ気づくべきです。

良いおもちゃは、子どもたちに活気を与え、大地に目をむけさせ、人間らしい優しさや創造的な思考を与えます。両親を含めた大人が、例えばハンドバッグを買うときに、あれは良い、これは良くないと選択する豊かな目をおもちゃにも向けてください。きつとすばらしいおもちゃとの出会いがあるはずです。

(芸術教育研究所・おもちゃ美術館)

あると思います。こうした初期の子どもの様子には、玩具が子どもたちにとって気持ちの安定のために大きな役割を果たしているといえます。子どもたちが安心して遊ぶことの出来るような玩具を充分用意することが必要となっています。

しかし入園初期には、まだどの子どもがどの玩具が好きなのか保育者にもつかめていません。この年令のこの時期にはこの玩具で遊ぶのではないかという予想をもって保育環境を整えておきますが、級によって遊びの好きな子どもが多いこともあれば、ままごと遊びが好きな級もあるし、予想とは異なることがあります。保育者は子どもたちの様子をよく見ながら、一人一人が落ちついて遊べるようになるまで、玩具の種類や数も多く用意し、自分の好きな物、好きな場所を見つけて安定していかれるようによく見守っていききたいものです。そして子どもたちの興味や関心のあり方によって、必要とされる玩具の数の増減や、種類の変化などを考え合わせながら保育環境を構成し、日々の保

育を進めていくことが大切であると思います。

やがて日を追い時が経つにつれ、はじめは玩具そのものとかかわりで遊んでいた子どもが、次第に友だちとの遊びに楽しさを感じるようになり、玩具はなかだち的存在になってくることもあります。玩具は友だち遊びへの有効な手がかりをとっています。充分遊べるだけあれば、もうこの時期には数はそんなに多くはいらないでしょう。遊びながら、友だちに貸して上げることも出来るようになってくるでしょうし、使いたくてもがまんすることも段々と覚えていくことでしょう。またそうなることが、大切な成長の姿なのです。次第に子どもたちの気持ちが安定して遊べるようになってきた折には、子どもの遊びの展開を考察しながら、不必要と思われるものを片づけたり、新しい刺激となるものを用意していくなどといった玩具についての見直しが必要な時期があります。

そして更に、子どもたちが園生活に充分慣れてくると、三歳児でも四歳児でも自分自身で遊びをつくり出

していくようになっていきます。この頃は最初の頃のようにすぐ遊び出せるような玩具よりも、遊びの素材となるような素朴な玩具を取り入れることが大きな意味合いをもつものとなります。例えば砂場に木片を幾つか用意することで、その木片は自動車にもなるし、船にもなるし、川の流れを塞ぎ止める堤防にも見立てることが出来ます。自動車の形をした玩具はいつでも自動車でしょうが、素材である木片は変化自在に子どもたちの想像の世界に役立つものとして使われます。最近の子どもは玩具を大事にしないとか、すぐ気が移るなどという声もききますが、それは玩具のもっている内容によって、初めは魅力的に見えても一通りの使い方しか出来ないものだったとしたならば、ある程度使ったら見返らなくなるのは当然といえます。子どもは何事でも一つずつクリアして乗り越えていくのですから、自分の考えや、工夫を入れる余地がないとか、それ以上のものが生まれてこないと思えばいつまでもそれにとりついていないと思えます。

しかし、自分のイメージインジョンによっていくらかでも作り変えたり、想像を膨らませていけるものや、友だちとかかわって工夫しながら創り出していけるようなもの、即ち活動そのものを展開させていける材料には子どもの心は注がれます。街には高価な美しい玩具があふれていますが、幼稚園や保育園には素朴な玩具、いくら使ってもこわれにくい丈夫なもの、組み合わせさせて変化させていくことの出来る素材などを、環境として多く用意したいと思えます。子どもが見たて遊びをすることの出来る素材的玩具を扱うことによつて、自分の発想や工夫を取り入れながら、主体的に遊びを展開させていくことが出来るのだと思えます。こうしたものがあり、子どもの気持ちを保育者も共感したり承認したりしていくならば、子どもは考えて遊び、工夫して遊び、想像して遊ぶという遊びの原点ともいえるものが育ち、遊びを通して子ども自身も育っていくことと思えます。子どもの成長に合わせて、今一度玩具について考えていくことが、保育者として保

育環境を再構成することにもなってくると思います。

こうして遊びこんできた子どもたちはやがて四歳後半から五歳頃になると、交友関係が深まってくるとともに、目的をもって生活を展開するようになっていきます。昨日から今日への連続の中で、自分たちの遊びに必要なものをつくり出し、自分の考えていることが実現出来る方向に活動を展開させたいという気持ちをもちようになります。例えば基地ごっこに必要な大型積木でつくったバリア、紙を丸めてつくった武器、あるいは何人かで共同して組み立てた大きな段ボール箱の乗物など、遊びを盛り上げていくのに大きな活躍を見せています。もうこの頃は最初の頃のような既製の玩具にはあまりひかれませんが、見かけはつたなくとも自分たちでつくった遊びに必要な玩具こそが、子ども自身にとって最も価値のあるものとなります。それをつくり出した満足感、充実感もきつと大きいことと思います。保育者は子どもが考えていることが実現出来るような材料や用具を用意したり、多くの援助や働き

かけをするなどによって、遊びをより豊かにする源を子どもとともにつくっていくことに、十分な時間とエネルギーを注ぎ入れていきたいと思っています。

このように考えてきますと、幼稚園の三歳四歳五歳の間に遊びの種類も内容も変化し、目ざましい成長を見せますが、玩具自体の種類も内容もその存在も大きく変化しています。同じ幼稚園生活であっても、年齢により、時期により十分な配慮や工夫が必要なのは当然といえます。考えたり工夫したり出来る子ども、友だちと協力出来る子ども、健全な心で遊べる子どもに育ててほしいと願いながら、そのために多くの影響を与える玩具についてより望ましいものは何かを考えていくことが大切だと思います。

例えば積木遊びを例にとってみても、三歳の一学期頃には友だちがつくって積み上げていたものを壊す子どもがいちたります。外側から見るとせっかく遊んでいたのにと思いがちになります。若しかしたらその子どもは壊すという行動をしなから友だちとのかわ

りを持つとうとしているのかもしれない。こう考えればその行為を止めるより先に、壊してももう一度つくりかえることの出来るもの、それ自体がこわれてしまわないもの、そして大事なことは友だちに当たったりしても危なくないものなどということに配慮しながら、保育環境としての玩具を用意することが肝要となってくると思います。そして壊したことを叱ったりとめたりするのでなく、その玩具をなかだちとして友だちとのつながりを持つ方向へと進めていくことが出来るように、保育者自身前向きな気持ちを持ち、環境を通しての教育や、子ども同士のかかわりを考えていくことなどが大切なのだと思います。

来年度の新教育要領の実施を目前にして、環境を通して行う教育を考えると、子どもが環境とかかわっ

ていきいきとした生活を展開していくために、発達の時期に即した環境、玩具のあり方を再検討していくことも子ども保育者にとつての課題となつてくると思います。なおまた、忘れてはならないことは幼稚園の年令段階では子どもの一人一人の発達や興味の個人差が大きいので、年令とか時期などを考える以上に重要視しなければならぬのは、一人一人の子どもの発達や興味によく合った玩具が必要なのだと思います。こういったものがある中で、それらを使って思う存分遊びこんでいけるような場があり、またそれに加えて多くの有意義なものを合わせもつた環境があることが、子どもをよりよく伸ばす上に役立つことは明らかなことといえると思います。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)

〈ままごと道具〉考

—— インドネシアの場合 ——

り、それも日用品と一緒に並べられていた。唯一のおもちゃだけを売っていたのは、市場の入口の小さな屋台や路上の飯店であった。また、台所用具を扱う荒物屋でも小型の鍋やすりウスがみつきり、一目で八ままたとV用であることがわかった。母親は買物についてきた子どもにせがまれば、買って与えるということだが、すりウスなどは、小さいものも実際の調理で使うこともあり、小型の用具は子どももおとなも共用し、必ずしも両者の間にはっきりとした境界線があるわけではない。

インドネシアの八ままたと道具Vには、炊事のための加熱具、調理具、貯蔵具はあるが、饗応のための配膳具がほとんど見られず、食料品については皆無である。「料理をつくる」ことのほうが中心で、ままたと遊びのもうひとつの重要な要素である「客をもてなす」ことにあまり関心がないのだろうか。子どもたちが自分達のつくった料理で「客をもてなす」遊びをしないと考えられない。インドネシアの人々は、最近

では都市でスプーンとフォークを使っているが、基本的には古くから手で食べる習慣がある。豊かな自然に恵まれた環境から察してみても、「客をもてなす」ための道具がないのは、おそらく、手近な自然物を食器や食料の代用として遊んでいるため、単に市販のおもちゃとしては存在しないだけなのではないだろうか。

柳田国男は、「おもちゃの起こり」を次の三つに分類している。(1)自然にある、手近なものを利用する代用玩具、(2)おとなの生活用具を小型にした転用玩具、(3)子ども用に作られたものを買って与える専用玩具である。インドネシアの八ままたと道具Vは、その販売方法を見る限り、荒物屋では柳田のいう転用玩具に相当するが、市場や道路添いの店先では転用玩具から専用玩具へ移行する、まさに狭間の様態を示しており、自然物の代用玩具も合わせると、柳田の三分類とは異なる三種の玩具が同時に並存しているという非常に特異な状態である。

のだろう。こうした素焼きのハママごと道具Vは、子どもがおもちゃとして自ら選んだ玩具である。柳田はおもちゃの誕生の原点として人々の「信仰」をあげているが、ここに、子どものおもちゃが誕生するひとつの姿を見せてくれていると思う。

日本で「ママごと」という名称が普及し始めたのは、江戸時代であり、商品としてのハママごと道具Vも売り出された。木地のハママごと道具Vの誕生過程には、日本のおとなたちが子どもへの思いをハ道具Vに託してきた、ひとつの源流を見ることが出来る。インドネシアのハママごと道具Vが示す様相は、日本のハママごと道具Vの誕生までの経緯と絡み合わせてみると、さらにおもしろいのではないかと思う。

△文献V

柳田国男 「子ども風土記」 角川書店、一九六〇

柳田国男 「小さき者の声」 角川書店、一九六〇

本田和子 「子どもたちのいる宇宙」 三省堂、一九八〇

前川健一 「東南アジアの日常茶飯」 弘文社、一九八八

ケンチャラニングラット編 「インドネシアの諸民族と文化」 めこん、一九八〇

今井田道子・渡邊美津子 「ハママごと道具Vと子ども(1)」

日本保育学会第四〇回大会研究論文集、一九八七

今井田道子・渡邊美津子 「ハママごと道具Vと子ども、そ

の1インドネシアで出会ったママごと道具、その2インド

ネシアの食生活とママごと道具」 日本保育学会第四二回大

会研究論文集、一九八九

(国際音楽学校)

うよりはいかに新しい物を開発できるかという点に力を入れていた。だから雑誌の工作ページや付録の企画等からはよくお呼びがかかるのがこのタイプの人達である。

私は後者である。自分の創り出した、あるいはアレンジした手作りおもちゃが子供をどの様に喜ばし文化として残っていくかを知りたい。そもそもがクリエイター（物の創り手）である私の、これは手作りおもちゃ以外の作品製作にも通じる姿勢である。手作りおもちゃは私の「創る」という業なりわいの中の一部なのだ。

とは言え、決して教える手をおろそかにしている訳ではない。手作りおもちゃとは、クリエイト（創り出す）だけではまだ半分で、それを上手にメッセージ（伝える）して初めて完成となる作品なのである。子供におもちゃとして楽しませる一つの文化として彼の中に残る、そこで成立する。伝え方が悪ければ文化として実らない未完成品なのだ。その点が実に苦慮する、そして逆に面白い部分なのである。こう考えているから私にとって工作教室は遊びの場ではなく勝負の場、

常に緊張と不安を抱えて挑んでいる訳である。それでも近頃ようやく自分の「伝え方」のスタイルを見極める事ができる様になってきて「楽しみなから」という余裕も少しは出てきた気がするのであるが……。

「手作りおもちゃの先生」と「図工の先生」はよく同じと考えられがちだが、根本的に違うと私は考える。「図工」は勉強であり育成であり修練である。けれど「手作りおもちゃ」は「遊び」の世界にある物なのだ。私がこの仕事をやり始めた頃、子供からこんな声を聞いた事があった。

「こんな図工の時間みたいでおもしろくねーよー。」一時美術教師をめざした事もあった私はその頃自分の学んできた美術教育のノウハウを生かそうと力りきんでいて、年間通しての工作教室にカリキュラムなど組んでいた。春にはハサミの練習、ひもを結ぶ事を修練させて夏はからくりの伝承、秋には想像力を生かせる物を、冬にはじっくり腰を据えて版画、年度末には共同製作で大作を残そう……etcだが、その子は

んだ。モスラの羽の美しいデザインを自分の手で版画として再現したかったのである。自信作だった。友人達も賞賛した。けれど先生はこの作品を全く評価してくれなかった。「そんなに怪獣って好きなの？」というあきれた様な視線と、つけられた三重丸、図工に關しては四重丸五重丸が当り前だった工作好き少年にこれはショックだった。「どうして怪獣はいけないんだ！」自分の一番好きな物をバカにされた気がして私はとても悔しく悲しかったのである。

そういった数々の制約は良くないと、私は図工教育を批判するつもりは毛頭無い。これらは正しい「美術教育における教育的指導」に違いない。ただ「遊び」である工作教室の場に、これらは何ら持ち込む必要はない事だと私は考えるのである。

お陰で私の工作教室からはとても図工の時間には産まれ出ない物が誕生する。カップラーメンからドラエモンとキョロンシーがとび出すびっくり箱、次々に合体増築し、ターボレンジャーやら歴代の正義の味方の基

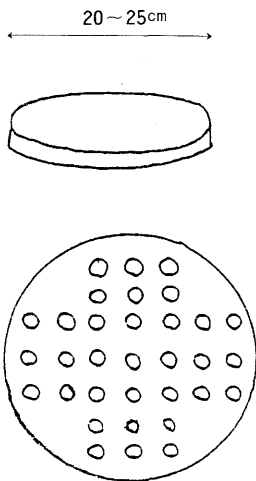
地と化したケン玉、障害物が全て「ウンコ」のドライブゲーム、また私の示した見本を克明にコピーして兄弟や隣近所の友人に配る分まで五個も六個も大量生産していく奴もいる。けれど皆それらを宝物の様に大事にして本当に楽しそうである。自分の創り出した作品が、子供達の手で自在にアレンジされて目の前で十も二十も増えていく、そんな光景を見る時私はまるで「沢山の孫に囲まれたおじいちゃん」の様な気分になるのである。

長い時代を経てもなお子供達を魅きつけずにはおかない伝承おもちゃ。ケン玉、ヨーヨー、割ばし鉄砲、コマ：etc. そんなおもちゃの殿堂に将来私の作品は入るだろうか。この子供達はこの文化を伝えてくれるのだろうか。そんな想いを抱きつつ私は今日も彼らを喜ばそうと苦闘している。「そりゃ『教育産業』ではなくて『サービスマス』だね。」口の悪い友人の言葉に「なるほどね。」とうなずいたりしている。

(おもちゃデザイナー)

に遊びという文字をつけて創作を行なってみたい。

△取る遊び▽ ソリテリア (和名ひとりぼっち)



ゲーム盤

図のようなゲーム盤を制作する。

工作素材

1、粘土 (紙粘土等) 2、木工用ボンド

3、ビー玉 (中32個)

制作工程

1、粘土を均等に伸ばす。(直径25cm)

2、図のようにビー玉をのせる穴を33個あける。

3、粘土が乾燥したところでボンドを水で5倍にうす

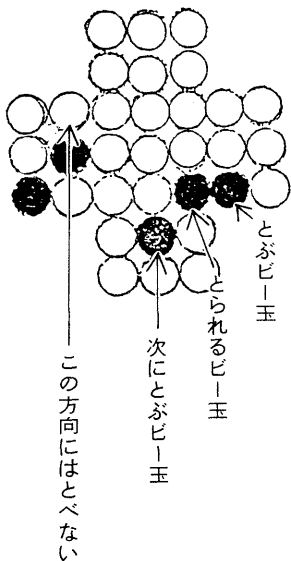
めたものを塗って出来あがり。

遊び方

1、ビー玉をパターンにしたがい並べる。

2、どこから始めてもよいが、ビー玉は、縦、横にか動かせない。ビー玉は、あいている穴にビー玉を飛び越して進むことができる。

3、飛び越したビー玉は、盤上から取りさる。これを、繰返して最後に飛び越したビー玉が真ん中の穴に残るようにする。これでひとつのパターンをクリアしたことになる。



4、小学生を中心にゲームをさせてみたがここにある

パターンであれば幼児でも遊ぶことが出来た。

4、色のちがうフリスビーが重なった場合は、いちばん上にあるフリスビーの得点となる。

5、フリスビーが重なりながら盤外にでてしまっても一番下のフリスビーが得点盤の一部ののつていれば点数の対象となる。

6、このゲームは、4回行ない順次順番を変えて行なう。幼児から小学生まで遊ぶことができ幼児は、得点盤の点数を動物、花などにして遊ばせている。

制作時間20分

△回して遊ぶ▽ テープこま

工作素材

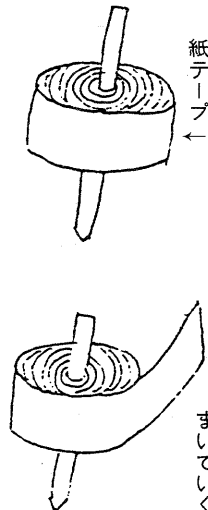
- 1、紙テープ（3〜5色）
- 2、木工ボンド
- 3、さいばし（新しくても古くてもよい）

制作工程

- 1、さいばしを10cmの長さにする。
- 2、えんぴつつけずり器などで先をとがらせる。

ボンドをつけながら

まいていく



3、紙テープにボンドをつけてさいばしに巻きながらはっていく。

4、直径3cm程になったら木工ボンドを全体に塗る。

紙テープは時々色を変えるときれい。

遊び方

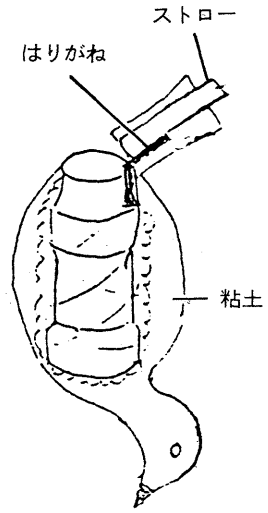
このこまは、両手で回せるので幼児でも簡単に回すことができる

制作時間15分

△鳴らす遊び▽ はとぶえ

工作素材

- 1、乳酸飲料水のあき容器



ティッシュ
わゴム

- 2、粘土
 - 3、太いストロー
 - 4、針金（手で曲がるぐらいのもの）
 - 5、セロファンテープ
 - 6、わゴム
 - 7、ボンド
- 制作工程
- 1、ストローを7 cmに切りセロファンテープで補強。
 - 全体を2〜3回まけばよい。
 - 2、容器に針金をセロファンテープでつける。
 - 3、ストローを針金にセロファンテープでつける。
 - 4、ここで実際にストローを吹いてみる、鳴らなければ針金の角度を調節する。
 - 5、容器にティッシュをつけわゴムをまきつける。
 - 6、ボンドをティッシュの上につける。この時粘土がう

きあがらないよう気をつける。形をはとの型にする。

7、乾燥したら、木工ボンドを5倍にうすめたものを塗る。

制作時間 30分

以上のように、いくつかの手作りおもちゃを紹介してきたが、創作するだけでなく、遊ぶという要素も充分持っていなければならぬのは、前述したとおりです。児童館での指導を例にとれば、工作時間のながい物は考えもので、遊びに重点を置くならば、30分程度を、目安にしている。

制作工程は、1から順に子供達自身に行なわせ、各工程ごとに工夫、考えさせることも必要です。先日も子供達に缶ポックリを作らせたが、ブリキ缶のバリをつぶす工程から入った子供達と、つぶしてある缶から入った子供達とは、出来あがったおもちゃに対する愛着や遊びかたにまで差ができてしまう。

現代の子供達は、意外な物に関心を示す。だが想像をふくらませ発展させていく具体性に乏しい。これは、指導者の配慮がたりないからで、子供達のリズムをくずしているからである、一方的な押しつけでなく、子供達が受身とならない指導の方法、題材の選出

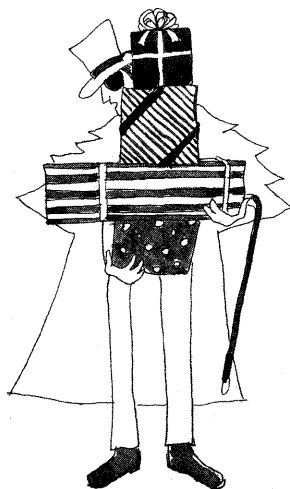
コンピュータゲーム

大川 潭二

目、ショボショボさせてどうしたの。深夜TVを見てその後ビデオを見て寝不足？前はよくTVゲームで寝不足だったってたけど最近はないのかしら。ああ、この頃はあまりやってないって話をしたっけ。いや、実は「コンピュータゲームについて」というアンケートが、何を間違ったかここにもきているんで、

も考える必要がある。子供は、遊びながらおもちゃを作り、作ったおもちゃでまた遊ぶ、この作りたい、なにかしたい、遊びたい、という動機づけを大切に、子供達の手だけができれば幸である。

(板橋区立大原児童館)



相談にのってもらいたいと思ったんだけど、いい？無視してゴミ箱直行でもいいけど、このテのことにはわりかし義理ガタイのと、回答すると全体の集計を知らせてもらえるから、ヤジ馬としてはそれを覗いてみたい。

人格形成を促進する

玩具の機能的特性

三神 静子

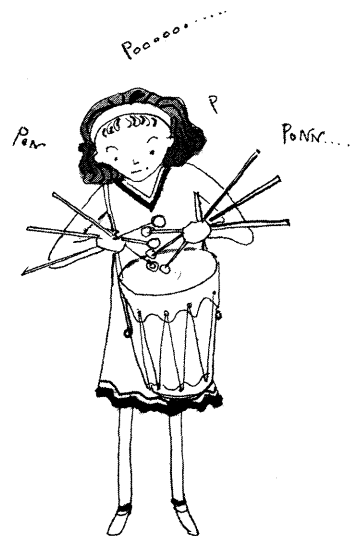
一 はじめに

「玩具文化」という小冊子が、玩具文化研究所（関係学研究所付設）から、一九八二年に刊行され始めている。扉文には、次のような「基調」が示されている。

“玩具文化の探究である。玩具劇場の開設である。

おもちゃのドラマの開幕である。どんなおもちゃも登場する。たくさんのおもちゃが、ドラマ・トイが誕生するだろう。プレイ（遊び、劇）の世界（時空の舞台）をひろげよう。”

その創刊基調論文には、「玩具学の提唱ーいと小さ



き『もの』に宇宙を読む」が本田和子によって書かれている。「手足の延長として、人々に密着して生活を共にしながら、簡単に捨てられて姿をとどめにくい、細々としたものたちを、先ずは、収集し、整理して、物をして語らしめる」ことに努めねばならない」とする「民具学」への視点が挙げられ、「その片隅の営みの中にこそ、民衆の血の通った生活が姿を現わし、人類の生きた歴史が立ち現われるのだ」と述べられ、そして、「玩具、このいと小さきものたち、それらをめぐる営み」のありようを開示する「玩具学」

方に、主として「自己」の顕在化するあり方がなされる場合、「自己と人」、「自己と人と物」、「人と物」、

「物」の顕在化するあり方がなされる場合、などの五通りを類別できる。そしてまた、それぞれにおいて、それぞれ違って「性格の形成」（人格の発達）、自己の構造化がなされる。そのことに玩具がどのように役割を果すか。どのように構造化されている自己にとつての玩具であるか、同じ玩具でも、自己にとつてもつ意味が違ってくる。また、玩具の違いが自己の構造化の仕方を変えることもまた、あり得る。

○ 構造化する自己の性質

自己・人・物の接在共存状況における存在の仕方（かかわり方）から、構造化する自己は、次のように類別される。①同心的・内在的 ②同接的・内接的 ③交叉的・接在的 ④併存的・外接的 ⑤自存的・外在的 ⑥随所自在的 ⑦状況遍在的 などの七つの自己構造。

○ 自己とかわる玩具の性質

自己と玩具のかかわりにおいて顕在化する性質には、これまでの研究で明らかにされているものに45種類ある。これを次に列記する。

危含性・軌道性・変様性・恒用性・併在性・孤立性
 ・共用性・間性・媒介性・疎外性・含有性・表演性・
 転位性・定位性・同時性・道具性・対応性・連携性・
 連結性・分離性・個有性・象徴性・展開性・縮図性・
 含蓄性・素材性・突発性・顕出性・出現性・浮遊性・
 遊動性・誘導性・表出性・役演性・機動性・伸縮性・
 変動性・変容性・変展性・拡散性・行動性・動作性・
 表現性・操作性・乗動性。

これは、かかわる自己の性質（構造）が異っても、あまり変ることのない性質である。というのは、自己がかかわる玩具の「向う側」には、玩具の「物」としての性質があるからである。自己とかわることににおいて顕在化する物の性質は、自己（または人）とのか

かわり方によって変わり得る。

この、自己（または人）のかかわり方によって、自己に成立する体験には、かかわり感情が伴われる。そしてこのかかわり感情から、それに対応する玩具の特性をとらえることができる。

以上の基本的な立場から、45種類の玩具の機能的特性が類型化され、それぞれに、自己の構造と対応する七つのかかわり方―①内在的 ②内接的 ③接在的 ④外接的 ⑤外在的 ⑥随所自在的 ⑦状況遍在的―によって成立するかかわり体験・感情を挙げることのできる（関係学研究・第15巻第1号・一九八七年）。

○ 研究事例

「個と集団の相即的發展をもたらす玩具の特性」から、これまでの基本的立場の理解を深めてみよう。

◎ 大なわとびの△つな△の場合

△つな△の活動空間において働く「軌道性」つま

り、その空間に軌道をつくる性質が発揮されて、集団に個の位置づく関係が明確になり、また、集団関係の構造化に働く性質「共用性」つまり、共に使われるところに働く性質によって、集団に順番性が形成される。そして、活動化を促進する性質「変動性」つまり△つな△の回転に伴う動きがつけられる性質が発揮されて、成員における役割分担化、すなわち、役割分化・役割連担・役割演出性などが生まれ、また、行為をもたらす性質「動作性」つまり△つな△の回転によって次々に飛ぶ行為を誘う性質が発揮されて、集団の連結構造化が促進される。

“大なわとび”における集団のかかわり構造において、個（自己）の内在的、内接的、接在的、外接的かかわり方などのされるのをとらえることができる。そこにおいては、多面的なかわり感情体験が成立し、人格発達を促進することに関連して働く特性を見出すことができる。

*例えば、△つな△の機能的特性「軌道性」に対応

が、私は、「おもちゃ」は子どもたちが自分の生活の必要性の中からつかみ取っていくもの・自分の求めに従って行動しているとき出会うモノだと思っています。そうした出会いが生まれるような環境を拓ひらいていくことが大人の役割なのかもしれません。

私が、子どもとモノの感動的な出会いを通して学んだ「おもちゃとは？」について早速述べてみたいと思います。

△自己発揮の対象物であること▽

今、私が一番面白いなと思って見ているのは、自分の好きな所に行ける自由を獲得しはじめた一、二歳児の、探索を通してのモノとの出会いの姿です。それは、子どもとモノとのかかわりのありようを根本的に考えさせられる重要な意味を含んでいると思えるのです。

五月、竹やぶを散歩していたら、地面から十センチぐらい芽を出した細筍をみつけたさなえ（二歳）が、

「あっ」と歓声をあげ、さっそくそれを引き抜こうとしました。けれどもなかなか抜けるものではありません。そばにいた私の手を引っぱって「とって」と求めたので私も力いっぱいやってみたのですがどうしても抜けません。そこで「さなちゃん、とれないよ」と話

すと彼女はにぎりこぶしをつくっておこり、何とか取ってほしいと全身で訴えるのです。そこで先の尖った石を使って切りおとしますと、さなえは大喜びでその筍をもち、先っぽの繊維がしょぼしょぼと生えたところをペロツとなめて石段の所にぬりつけるのです。

そして何も描けないとわかるとまたなめてこすりつけるので、つい「さなちゃん。なめてはきたない」と注意すると、ニコツと笑って水たまりを見つけ、そこに筍の毛をつけて石段にしきりに何か描き始めました。

竹やぶの細い筍をみた瞬間、彼女はそれを筆みたいなものだと想いついたのでしょう。細筍をみてとっさに、彼女の祖父が筆を使っている姿を想い浮かべたのかもしれない。ともかく自分の発想を行動に表わさ

△半素材的なモノであそぶ子どもの姿▽

砂袋は、さらしのような丈夫な布で袋を作り、その中に一キログラム、三キログラムぐらいの砂を入れ、砂が出ないように上からも一枚布袋をかぶせたものです。それをたくさんつくっておくと、年齢によってそのあそび方はさまざまですが、例えば工事現場で働く



▲バスごっこ

おじいさんたちの様子をみてくると、それはたちまち工事現場の重たい砂袋になり、三、四人で力をあわせて運搬されます。そして比較的小きな砂袋は、肩にかつがれてお米やさんごっこに利用されたり、宅配便やさんの荷物になったりします。

中が空洞になっている単なる木わくが、子どもたちの豊かなイマジネーションを実現する遊具として、いかに活用されてきたかは、写真で納得していただけるのではないかと思います。

子どもたちの日常の生活経験から内在化されたイメージが、さまざまなモノと出会い、豊かな表現に結びついていく。そのプロセスこそあそびであることを語ってくれるようなおもちゃが、子どもと大人の共同生活で豊かにつくられていくことを願ってやみません。

(川崎市宮崎保育園)

そそぐ母とあおぐ私

やまだようこ

1 上位の偉大な母と、下位の卑小な私

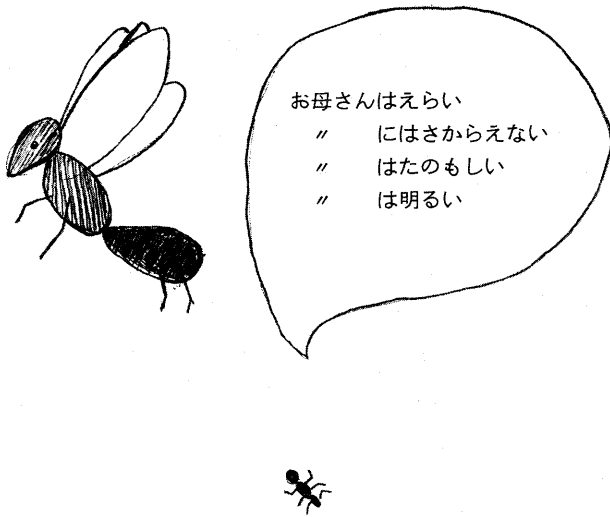
視覚的イメージというものはふしぎである。そこには、人が潜在的にもっている価値観が意外にはっきりと生のかたちで現われる。

かつて「隣の車が小さく見えまゝす」と得意そうに叫ぶコマーションルがあった。「大きいことは良いことだ」と単純に信じられていた、高度成長期のことである。だがオイルショックを境に情勢が変わった。大きい車は、有限で貴重な地球のエネルギーを余分に消費する、やっかいものであると認識されるようになった。そして小回

りのきく小型車のほうがよく売れる時代になった。

それでも私たちは、「大きいことは良いことだ」という根強い価値観をひっくり返すところまではなかなかない。背の高い外国人の側に立つと、妙に劣等感をおぼえる。女性は結婚希望の男性に、背が高い人という条件をあげる。子どもは早く「小人」ではなく「大人」になりたいと願う。

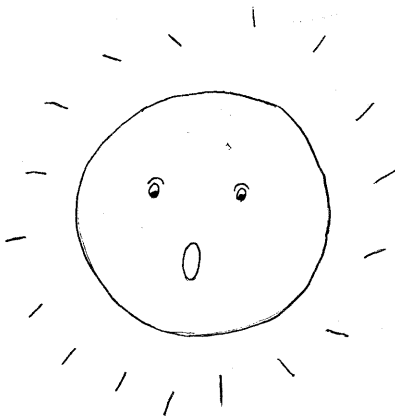
一寸法師のような小人こびとが活躍する物語が愛されるのは、大が小をやっつけて「やっぱり大きいものは強かったのです」というお話が現実世界では当り前すぎるから



お母さんはえらい
 " にはさからえない
 " はたのもしい
 " は明るい

▲ 図1 偉大な母

であろう。「さんしょは小粒でも辛い」「ウドの大木」などの言葉もないわけではないが、「器の大きさ」「志の大きさ」「気持の大きさ」など「一般的には何によらず大きいことは良いことであり、強い、たくましい、立派などの価値を表わす記号しごになりやすい。そして空間的にも、



アリ
 和

◀ 図2 太陽(母)と小さなアリ(私)

上や高い位置にあるものは、下や低い位置にあるものよりも、良い価値をもちやすい。だから母子関係を描く絵の、母親と自分の物理的大きさや、空間的位置関係の表現のしかたは、その人の母親に対する評価と密接に関係しているようである。

図1と図2は、「母は私より圧倒的に大きい」「母は私よりはるかに高い所にいる」「母は私にはない特別な能力をもつ」と認識された場合の構図である。これらの母は、地面をほう小さいアリと違って、羽があつて空を飛べたり、空の高みにいる偉大な存在として、卑小で価値の低い子どもと対比的に描かれている。

2 尊敬され仰がれる母

図3と図4は、子どもに尊敬され、あこがれの対象とされる母の姿である。子どもは母なる大空や山を仰ぎ、できることなら自分もそこへたどり着きたいと、両手をあげて求め背伸びをしている。

大きく高い山、大きく高い青空、ちっぽけな人間に比べて、それらはいかにも大きく、また遥かな高みにある。人は身近かにあつて手を伸ばせば簡単につかめるもの、自分の手の内に入る小さなものではなく、遠くにあつてとても届きそうもない高貴なものに対して、あこがれる。

母の方から子どもに手をさしのべなくても、子どもが母の姿に理想像を見て、「母のようになりたい」と願

◀ 図3 高い山(母)を仰ぐ私



母は私にとって目標だった。私にできないことを何でもてきた。そんな母は山みたいだった。頂上がどこかわからない。私は何とか山と同じになりたいともがいている。

幼いとき、私は母を神様のように思っていました。母の言うことは絶対だったし、母を信頼し、尊敬し、ただで甘えて反抗ばかりしていました。私はいつも母にすがろうとしていました。母にとっては迷惑だったでしょう。



▲ 図 4 大空（母）を仰ぐ私

い、現状に満足しない高い望みやあこがれを抱くならば、それだけで子どもを大きく育てる原動力になるだろ

う。

だがこのような威厳にあふれた母親の像は、現代の日本では少なくなりつつある。一九八一年の総理府国際比較の調査によると、十五歳で「お母さんを尊敬している」と答えた子どもは、アメリカ、タイ、イギリス、フランス、韓国では九十パーセント以上いたが、日本では七十パーセント、「お母さんのようになりたい」子どもも、日本では五十パーセント以下にすぎず、諸外国に比べて極端に低い割合であった。

3 光をそそぐ太陽としての母

「空の高みにいる偉大な母」の姿を表わす、もっともポピュラーなイメージは「お日さま」である。自己を上から照らしてくれる「太陽のような母」は、下積みの土台となって下から支えてくれる「大地のような母」の対極にたつ。両方とも子どもの存在よりもはるかに大きいから、子と同じ人間として描かれるよりも、自然に喩えられやすい。

しかもこれらは、山や空のように高く大きい存在というだけではなく、生き物に栄養をそそぎ育くむという性質をもっている。太陽も大地も母の比喩としてはあまりにもありふれたものだが、生き物を滋養する偉大な自然のふたつのあり様をこれほどびったり表すものは他にない。

人間を含めて生き物は太陽のおかげで生きており、太陽を求めて伸びる。だが近づきすぎれば焼け死ぬから、太陽は遠い存在であって、決して身近には寄れない。生き物は太陽の光にあこがれ、それを仰いで暮らす。

太陽の構図に典型的にみられる「上部の高い位置にいて、大きくて圧倒的に力が強い母」と、「下部の低い位置にいて、小さくて卑小で弱小な私」が対比される構図は、実は先回の「おとす母とうたれる私」のなかの、「上から監視する母」「見下ろす母」「かなづち」「雷」などの構図と基本的には同じである。

同じような配置の構図が、まったく違う雰囲気でも、一方では「偉大であたたかく自分を見守り光をそそぐ太

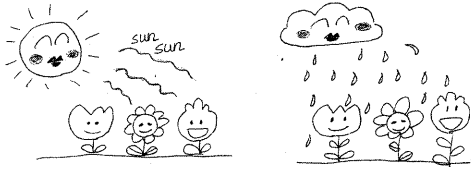
陽」として、もう一方では「尊大な権力で冷たく自分を監視し打ちたたたく怖い雷」として認識される。しかし両方とも自己像よりはるかに大きく強力で、上下関係にあることは同じである。

同じような位置関係でも、そそがれるものが自分を育て成長させる恵みの日の光なのか、自分を怯えさせ打ちつける怖ろしい電撃なのか、何が自分にそそがれるのかによって正反対の雰囲気になる。

母の機能は、通常はひとつだけに決めることができず複合的であるし、時と場合によって違うから、図5のように、あるときには母はあたたかい日の光であり、あるときは雨を降らせ雲であり、あるときは怖い雷であるというのが、いちばん一般的な姿かもしれない。だがこのようにいろいろに変化しても、自己を表わす花と母親との空間的位置関係は変わっておらず、母親が常に「天上」に位置づけられ、自分にいろいろなものを上から降り注ぐ存在として描かれていることは、この絵の場合にも一貫している。

優しいとき

大きく育ててくれた様子



厳しいとき

▲ 図5 太陽、雲、雷の母

私は、両親にとっては初めての子であったからかもしれませんが、とても、大切に育てられたと思います。特に、一日中接している母の印象は深いです。たぶん母は私を長子であったため、育児書などを見ながら、おっかなびっくりで育てたのではないのでしょうか。

母は私を、「守ってくれた」のだと思います。優しく、そして時には厳しく。その姿は、植物にふりそそぐ、太陽の光・恵みの雨・冷たい風・かみなりなどに比喩できると思います。

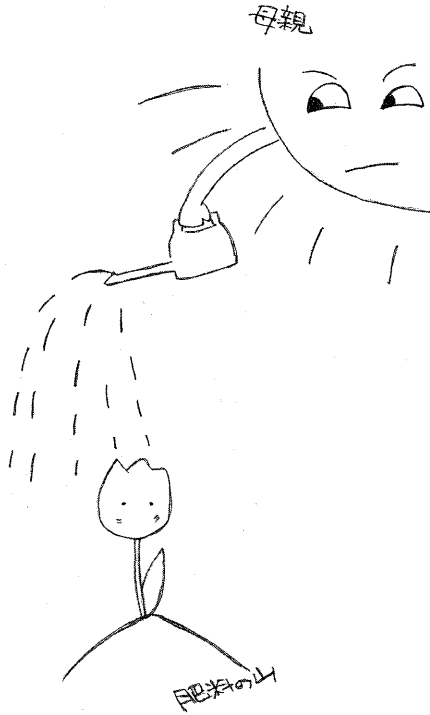
母が私を見守る太陽であったとする。その恵みを一身に受け、まっすぐ天に向かってすくすく育つひまわりが私であったと思う。言われたことを素直に受け止め、いつも母を追いかけ、絶対的な存在であると思っていた。



◀ 図6 絶対的な太陽(母)とひまわり(私)

4 子どもの側からみた日光
物理的には同じ日光がそそがれたとしても、子どもの

母親…強い直接日光と水と肥料を作って花を純粹
 培養する太陽的存在
 私…花



▶ 図7 花(私)を純粹培養する強い日光(母)

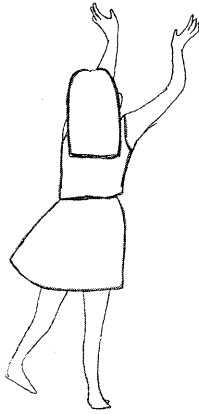
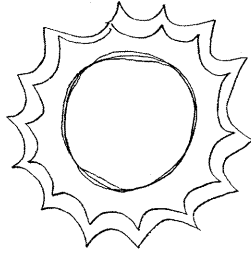
性格や受けとめかたによって、その見方がちがってくる
 こともある。図6と図7には、太陽のもつ微妙なちがいが

が表現されている。絶対的な太陽の意向のままに素直に
 回る向日性のひまわりのような子どもには、親の光はあ
 たたかい恵みそのものにみえる。だがそれも、突き放し
 て批判的に見る子どもには、太陽ママゴンの過剰光線と
 紙一重の差に見えるかもしれない。

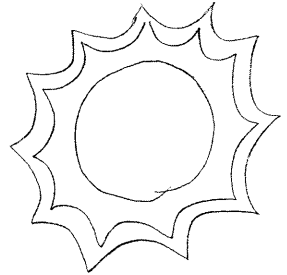
親子関係は、一方的な親のありようだけでは決まらな
 い、相互的なものである。だから子どもが親を「尊敬で
 きる偉大な存在」と感じるか、「尊大で強制的で権威的
 な存在」とみなすかによって、機能が一変する場合もあ
 る。母の側では、子のためにそそぐ「愛情の光」だと
 思っても、子の側からみれば「監視の目の光」にしか見
 えないこともあるだろう。

図8と図9は、幼いときには母なる太陽に向かつてす
 くすく伸びていた子どもが、青年期の現在では、母の光
 線をさえぎって暗い箱に閉じこもっている絵である。こ
 のように青年が自立に向うときには、あたたかく、ぬく
 ぬくとした日の光をあえて拒否して、暗闇のなかで不自
 由で惨めで孤独な自己を耐え忍び、身を縮めて震えなけ

◀ 図8 太陽(母)を求めてのびる私
 (図9を描いた人の幼いときの私)



母の熱を求め
 それに支えられていた



▶ 図9 太陽(母)の光を拒否する暗闇の私
 (図8を描いた人の現在図)



母の熱をさえぎって
 一人でふるえている

ればならない過程も必要である。母の光は、いつも子どもを育む良いものとして機能するとは限らないのである。

(愛知淑徳大学)

ラス懇談会で、それぞれのお母さんから出産の時の話をうかがい、母親になる感動を分けてもらったように思います。そして毎日を共にしていた子どもたちの姿を浮かべ、誕生の瞬間を重ね、その間のお母さん方の育てていらしたという事実が、とても重みのあるように感じたのです。それから特に、自分はどんな出産をし母になるのだろうと、楽しみにになりました。

話は前後しますが、幼稚園に奉職する以前に、身籠る前に退職をしようと決めていました。私の母が保育者として仕事をしながら私を育ててくれたこともあり、自分が仕事と育児をどうするか、と学生の時迷い続けました。仕事をしたい、というより、仕事をしなければならぬ、と考えがちだったことも迷いを長引かせたのかも知れません。でもその迷いは、大好きで尊敬している二人の大先輩の言葉で解決されました。

卒業式の前日、卒業の報告とお別れの挨拶をしに行った時に次のような言葉を戴きました。『結婚もして子どもも産みなさい。子どもを産んで、育児のために職場を

辞めることになっても、あなたの保育の道が途切れてしまふことにはならない。ずっと続いていくものです。

『長い間、熱心に幼児教育に取り組まれている先生からの言葉だけに意外でしたが、辞めても大丈夫という解放感と安心を胸に、仕事を始められたのでした。

もう一つは、何気ない雑談中の思い出話です。保育を共にし、横にいただけで嬉しい気持ちになる先輩が、初めてお子さんを身籠った途端、当時手伝っていた幼稚園の滑り台から降りられなくなってしまった、という内容でした。とても印象深く、滑り台から降りられない先生の姿とともに忘れられない話になったのでした。

子どもができるかどうかかわからないうちに幼稚園を辞めましたが、四年という短い期間でも、満足した気持ちでいられました。

病院を決めるまで

妊娠したのでは、という期待の一方で、先ず私を悩ませたのは病院選びでした。産む病院で最初から検診を受

けた方がいい、という思いがあったために、早く病院を決めたかったです。

母子同室であること、生まれてすぐにおなかの上のせられること、母乳が出ていなくても、すぐに乳を含ませられること、座産ができること。これらが、出産に際しての私の希望でした。

病院に関しては、何の予備知識もなく明るい気持ちでいるのが赤ちゃんにも良いとわかっていながら、もっと良く調べておけばよかった、と悔やんだりもしました。

希望が通らないことがはつきりわかっていましたが、早く妊娠を確認したかったので、夫の会社関係の病院を訪ねました。この病院で出産するかどうか尋ねられ、看護婦さんに全てを話しました。その看護婦さんも出産の経験者で、私の話に賛同し、心あたりのある助産院の案内書をくださったり、もう少し体が落ち着いたら本屋さんに行つて病院のリストが載っている本があるのでは、と一緒に考えてくださいました。

勝手な判断で、ラマーズ法で産める施設なら可能性が

あると思い、リストの中から通院が比較的楽そうな病院に電話で問い合わせしてみました。ある病院では忙しい中、丁寧に私の話を聞き、こだわりすぎない方がいい、とアドバイスをくださった先生もありました。他の病院に問い合わせる前に、この病院なら確実に希望が叶う所があったのですが、住まいから少々遠いので諦めることにしました。

ベビー用品の会社や、マタニティ雑誌の電話相談にも問い合わせをしました。なかなか具体的な資料はないようで、相談員の方から、希望する病院があったら教えて欲しい、と逆に頼まれたこともありました。

結局は、実家のすぐ近くの母の同級生で産婦人科医をしている方が、私の望みをほぼ叶えてくださるということで、里帰り出産をすることになり、ほんの十日程のことですが私にとっては長い病院探しの期間を終えたのです。

うれしい日

「妊娠です」と言われた時は胸が熱くなって泣きそうになったにもかかわらず、病院も決まらず、つわりもあり、気分が晴れない日が続いていました。たまたま、私の友人にも、夫の友人にも、流産した方が比較的多く、本当に生まれてくるのか自信も持てないでいました。

私が幼稚園で担任したYちゃんのお母さんは、ご実家も近く、二年前に出産なさっていたので病院のことをよく知っていらっしやると思い、電話をしました。明るい笑い声と共に、何ヶ月、という言葉で、Yちゃんに私の妊娠のことがわかり、歓声も聞こえてきました。

残念ながら出産する病院は決まりませんでした。Yちゃんもお母さんとても喜んでくださり、明るい気持ちで受話器を置きました。その直後、そのお母さんから電話がかかってきました。Yちゃんが、電話の横に置いていった一枚の手紙を読まずにはいられないと電話をしてくださったのです。

せんせいに あかちゃんができて ほんとうにおめでとうございます。

かみさまにおねがいしていたことが かなえられました。

こんどのかみさまへのおねがいは せんせいとあかちゃんが なかよくできることです。

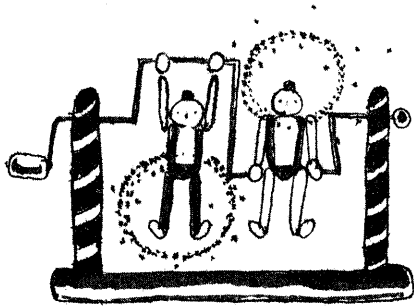
そして、まわりには赤ちゃんの絵がたくさん描いてあったそうです。卒園して一年近くの間、Yちゃんが私のことを神様に願ってしてくれたことを初めて知り、驚き、喜び、すぐには言葉が出ませんでした。私が赤ちゃんと仲良くできる、ということとは絶対生まれてくるんだ、とこの時に確信できました。受話器をお母さんの手から少しの間とってしまえば、すぐに話もできたのが、一枚の紙に祈りを込めて書いてくれ、何も言わずに電話の横に置いていったYちゃんの気持ちに有難く、不思議な力が私の中にはいつてきて赤ちゃんを守ってくれてい

るような気持ちにもなりました。

たくさんのお祝い物

赤ちゃんが身近にいたり、妊娠すれば、当然知ることなのでしようが、知らなかったことを知るとは、楽しいことでした。そしてそれは、出産や育児に関しての小さな不安を消していってくれるものでした。

保健所や病院での母親学級や、その他のマタニティスクールに十回程参加し、そのつど新しいことを知りまし



た。

爪を切ることに不安がありました。唇のすぐ下を押すと、赤ちゃんがよく眠っているかどうかわかるので、その時に切ればよいことを知り、早く爪を切ってみたいと思うようになりました。

入浴に対しても、赤ちゃんの生活のリズムを考えると、夕方までには入れてあげたいと思っていたので、母親がひとりで行われる方法を習った日は、足取りも軽くウキウキして家路につきました。

カルシウムを効率よくとる方法は歯の衛生についての講座の日、夫婦が仲良くすることが子どもの非行を防ぐ、という話ともなりました。

また、出産の一部始終を撮ったビデオも見ました。子宮口が開き、赤ちゃんの頭が見え、顔、肩、からだ、足と出てくるのを見て、他の受講生の方々と、涙ぐんだこともありました。自分の出産も見られないし、大きな驚きでしたが、知らないことからくる不安はなくなりました。

中には同じことに関して、全く反対の方法をとらえ方

を言われましたが、育児の情報のあやふやさなどを考えさせられ、これも大きな収穫になりました。

担任していたTくんのお母さんは、「胎話」の新聞の切り抜きを持ってきてくださいました。ある産婦人科医の指導で、簡単な道具を使っておなかの中の赤ちゃんに語りかけるといふものでした。四人の子どもの育児中のTくんのお母さんは「私も これをやってあげたかった。絶対いいと思います」と笑顔で手渡され、気にかけてくださっていることに心から感謝し、この記事を参考にし、「胎話」の道具をありあわせの材料で作ってみました。

近所に住むYさんは、私が今の社宅に引っ越して間もない時、ゴミ置場の掃除のことでいろいろ教えてくださった方です。近くのスーパーで、そのYさんから「もしかして、おめでた？」と声をかけられた時はYさんの声がとても弾んでいて、思わず「ええ、とても嬉しくて」とはつきりと応えていました。買物袋を下げ家へ戻る間も、喜びがどんどん膨んでいくのを感じていまし

た。

社宅のすぐ上の階に住んでいるHさんは、ご自身の出産の十日後に訪ねてくださり、自分はさぼって、しまつてつらかったから、呼吸法、妊婦体操、乳房と乳首の手入れをしつかりやっておくようにアドバイスをくださいました。看護婦であるHさんの出産直後の言葉は重みがあり、真剣に行うようになりました。

妊娠を確認しに行く前日、たまたま電話をしてくれた弟に「調子がよくないけれど、つわりかもしれない」と言うと、翌日、もぐさ、お線香、漢方の本を持って来てくれました。漢方医学を勉強中で、鍼灸師の資格を持っている弟は、つわりを治すお灸を教えてくれて夕食の用意もしてくれました。

実家の母は観音様へ行き安産祈願をしてくれました。いただいたきた安産守の袋の中には、安産御守、腹帯守、ろうそく、お餌、お米などがいっていました。七五三のお宮参りもしたことがないのに、と苦笑しながらも安産御守を財布の中に入れ、お餌とお米も数日後、い

つものご飯にたきこんでいただきました。

父の日に、欲しい物を尋ねると「元氣な孫」とひと言だけでした。「安上がりね」と笑いながら嬉しくて、それ以上何も言えず、電話を切りました。

夫の母も、三十年近く前の、夫がおなかにいた時の話や、夫がどんな赤ちゃんだったかを話してくれ、マタニティウェアを作ってくれています。父もたまに見る私の姿をからかいながら体のことを心配してくれ、病院の予約など、抜けることの多い私たち夫婦を見守っていられます。

ひとりひとりの言葉が贈り物に思え、ひとつひとつをおなかの赤ちゃんに伝えながら「よかったね、よかったね」と一緒に喜んでいきます。この子が育つために全ての力が集まってきていると思ってしまうこともありました。

三人での穏やかな日々

もともと私以上に子どもが好きな夫ですので、赤ちゃん

んができたことを知って大喜びでした。「わからないことがあったら聞くといい」と、産婦人科医の親友を家に呼び、「初めてあいつが役に立った」と冗談を言って笑っていました。

私が胎動を感じ始めた頃は、夫が手をのせるとピタッと止まり、「僕じゃだめなんだ」とがっかりしていました。それが約一ヶ月後夫が夜中に帰宅した時に、目が覚めた私と一緒にポコポコ動き始めました。「自分の声が赤ちゃんにわかって動いているのだろうと思うと嬉しい」と泣きそうでした。それからは朝晩のあいさつや出勤のあいさつを、おなかに手をあてています。まだおなかの中にいますが三人家族になったつもりでいます。

私の体調が良くなってからは、休日ごとに夫と外出するようになりました。季節の花々を見たり、野鳥や動物にも会いに行きました。ふだんの買物も以前より遠くへ歩くようにし、いちょうのはっぱがまだ小さいね、へびいちごがまっかね、まだタンポポがさいているのね、と

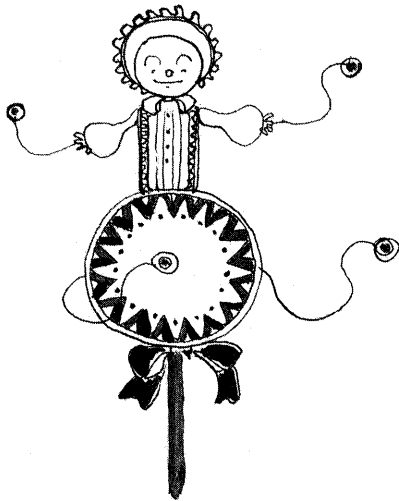
道端の見逃してしまいそうな些細なことも私の目にとび込んでくる感じです。勿論まだ赤ちゃんには外の景色は見えませんが、私の目を通して、そして心を通して見て欲しいと願っています。

今住んでいる住宅は古いつくりで、和式のトイレであり間取りも狭いことに不満を持っていましたが、和式のトイレが安産につながると思えたり、狭くてもその分掃除が早くできてたくさん遊んであげられる、と思えるようになっていきます。

少し気分がすぐれない時でも、おなかの中の赤ちゃんに絵本を読んだりあげたり、歌ったりしていると元気になってきます。隣の寺院の建て替えて、これから一年四ヶ月の間工事が続くそうです。すでに取り壊しのためにかなり大きな騒音に悩まされています。イライラするころともありますが、赤ちゃんには朗らかなお母さんが一番いい、と思いなおし「イライラしてごめんね、だいじょうぶよ」とおなかに手をあてて謝ります。赤ちゃんがいるお陰で、毎日が穏やかにになり、心もきれいになってい

るように思えます。

幼稚園に勤めている時は、子どもたちの横にいられることがとても嬉しく、心も優しくなれるような時間をすごしていました。そして今、自分の中に存在している命とともにいて、同じような感じを持っています。身が二つになって今のままの気持ちでいられるのか、もしかしたらガミガミお母さんになっていたりもするのでしょうか。穏やかにすごす日々の中では、やはりそれも「楽しみ」になってしまいます。



今月は、子どもの生活に切り離せないおもちゃをテーマに特集を組み、各方面の先生方に書いていただきました。

多田先生は、芸術教育が御専門で、中野区でもちや美術館を運営されています。お忙しい中、お電話で伺っただけでも、興味あるお話をして下さい、とても親しみのあるお人柄でした。

大川先生は「ファミコン大好き中年」で、「コンピュータゲームは、単に新しい遊びのメディアというだけではなく、文化になりつつある。」という御意見を持っていらっしやいます。

おもちゃ会社では、最近はその出生率が低下しているため、おもちゃの売れゆきをのばすには、大人も子どもも、楽しめるおもちゃを売り出す傾向にある、という話もききました。

その中で、子ども達は確実に「おもしろい」ものを選んでるようにおもいます。

渡辺先生のインドネシアのおもちゃには生活感があり、子どもは大人のすることをよく見ている、と思いました。

村石先生、今井先生には、保育の現場からおもちゃを考えていただきました。黒須先生、秋田先生、これからも子ども達といっしょに、楽しいおもちゃを作りだして行って下さい。

おもちゃという身近なテーマで、たくさんの方々に、原稿をお送りいただいたため、64ページのこの本の中に、おさまらなくなりました。編集の都合で、悩みに悩んで、やむなく来月送りとなった原稿もありました。ゴメンナサイ。

ともかく11月号、ようやくでき上がりました。向山さんから編集をひきついで、六冊めです。これからも、良い本を作っていくと思っています。どうぞ、皆様の御意見、御感想をお寄せ下さい。

(K)

幼児の教育 第八十八巻 第十一号

十一月号

定価 四一〇円（本体三九八円）

平成元年 十月二十五日 印刷

平成元年 十一月一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子

発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一九六四〇番

TEL・〇三一二九二・七七八一

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします

幼稚園教育要領解説



教育要領改訂の理由？「総合的」とは？「領域」とは？などなど、教育要領の各項目について、明快な説明と、考え方の基本がのべられています。また、著者以外の協力委員による補足の話し合いもつけられて、よりわかりやすい内容となっています。

目次から

- 第1章 幼稚園教育要領はなぜ変わるのか
- 第2章 どんなふうになるのか—考え方の基本—
- 第3章 幼稚園教育の内容
- 第4章 これからの幼稚園教育を計画し実践するために
- 付録 「幼稚園教育要領」全文

大場牧夫・高杉自子・森上史朗 共編著 A5判・270頁 定価1,200円(本体1,160円)

〈付〉学校教育法施行規則(抄)

幼稚園教育要領



文部省告示「幼稚園教育要領」改訂版で、幼稚園教育の基本的な精神が示されたもの。実施日は平成2年4月より

幼稚園から高校まで同時改訂公表され、教育のはじめは幼稚園からと幼稚園が位置づけ教育られた。

改訂版は遊びを通して人や自然と関わる力を培い子どもの発達に即した教育の必要が示された。人間として生きるための幼児期の教育内容が明らかになり、教育哲学が確立されたこと。保育関係者必携の書である。

A5判・16頁・定価100円(本体97円)

くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所または本社総括部(03)292-7783(代)にお問い合わせください。

子どもの心と明日を考える
キンダーブックの

フレーベル館

全6巻

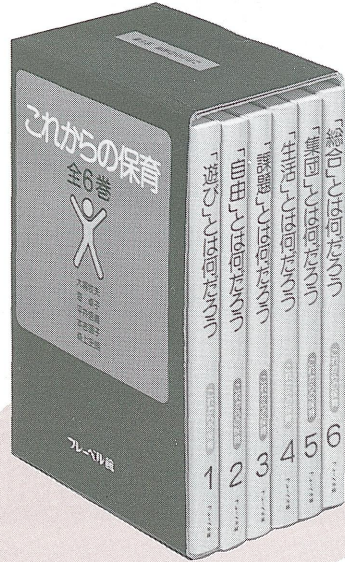
これからの保育

大場牧夫・海 卓子・平井信義・本吉圓子・森上史朗 共著

若い先生も、ベテランの先生も、
原点に立ってもう一度“保育”を
考えてみませんか。基本的な問題
を考えてみませんか。あなた自身
“これからの保育”を確かなもの
とするために。

●あなたの保育を深め 充実させます。

「保育」を原点にもどして考え直
し、子どもたちの自主性の発達を
助けたい。自由に生き生きとした
保育を目指して保育者自らも高ま
りたい。



シリーズ「これからの保育」は、

1巻「遊び」とは何だろう	4巻「生活」とは何だろう
2巻「自由」とは何だろう	5巻「集団」とは何だろう
3巻「課題」とは何だろう	6巻「総合」とは何だろう

という命題について実践をふまえて重ねた討論から問題を提起します。

A5軽装判・各256頁・セットケース入り

セット定価9,888円(本体9,600円)

くわしくはフレール館代理店・特約店・支社・支店・営業所または本社総括部(03)292-7783(代)にお問い合わせください。

子どもの心と明日を考える
キンダーブックの

フレール館